

プロジェクトリーダー：愛知工業大学 基礎教育センター 東平彩亜准教授

事業実績調書

(1) プロジェクト名	遠隔システムを用いた学習習慣形成支援
(2) プロジェクトの成果（※そのような成果が得られたかについて具体的に記載）	<p>残念ながら本プロジェクトは、コロナ禍の影響もあり、本格的に始動する前に一旦休止することになった。そのため、今年度の活動からはまだ成果といえるほどの成果は上がっていない。</p> <p>本プロジェクトを通して、学校現場が学習支援に関して抱えている課題やコロナ禍における学校現場の現状について改めて確認・整理することができた。</p>
(3) プロジェクト実施内容（※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	<p><u>2021年4月</u> 愛知工業大学で本プロジェクトに協力してくれる有志を募集した。12名の教職課程の学生と、技術支援者として、情報科学部の水野勝教教授（とゼミ生）にご協力を依頼した。</p> <p><u>2021年8月～9月</u> 愛知工業大学で中学生の意識調査の準備を開始した（申請書では5月頃の予定）。メンバーの顔合わせがてらミーティングを実施し、プロジェクトの目的を確認した。教職課程の学生有志と一緒にメール等で、中学生の実態調査の具体的な項目について検討した。</p> <p><u>2021年9月</u> プロジェクトメンバーでミーティングを実施した。愛知工業大学で検討した中学生の実態調査の調査項目を報告するものの、そもそもプロジェクトの目的について、認識にズレがあることが確認された。</p> <p><u>2022年1月</u> 本プロジェクトの休止を決定</p>
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	<p>近年のコロナ禍の影響もあり、9月の段階で光陵中学校では「新しいシステムを構築するよりも、既にある学習支援体制「地域未来塾」を充実させたい」、「遠隔よりも対面」という思いが強くなっていた。おそらくこれがコロナ禍による未曾有の状況下の現場の声なのだろう。他方、このような状況下だからこそ、遠隔システムを用いた支援は、学習に限らず、今後ますますその重要性を増してくる。まずは学内で十分な準備を進め、連携のあり方やタイミングを慎重に見極めたい。</p>